

「キラリと光る大学」として、その輝きを広げたい



学校法人天使学園 理事長 松岡 健一

本年4月から理事長に就任いたしました。土木工学が専門の私がなぜ天使大学の理事長職を引き受けたかと申しますと、理由の1つは、カトリックの洗礼を受けていたことです。天使学園理事会は理事として洗礼を受けた者が半数以上必要であったこと。また、もう一つは私が室蘭工業大学の教員として長く勤め、大学運営の経験があったことです。カトリックの精神を基本とする大学に、カトリックの信徒として奉仕したいと思ったこと、また大学運営の経験者として、国立と私立の違いはありますが、いろいろお役に立てるのではないかと思います決断しました。

天使大学は看護、栄養の分野で北海道の私学のトップレベルにあり、学生も優秀です。それをもっと充実、発展させていくことが理事長としての役割です。そのためには、教職員一人ひとりが主役としてご尽力いただき、それを理事会が強く支援することも重要です。一例としては、もっと研究面の活性化を図り、国の科学研究費補助金への申請を増やすということがあります。その前段階として本学独自の研究支援資金制度がありますが、これをもっと発展させ、それぞれの先生の活動に配慮し、一生懸命に研究に取り組む先生には内容に応じた研究費を配分するなど、限られた予算を有効活用する方法を考え、少しずつ改革できればと思っています。

建学の精神「愛をとおして真理へ」の愛とは、「人を許すこと、人に奉仕すること」だと私は解釈しています。聖書の中に“愛の賛歌”と呼ばれる部分があり、私なりに簡単にまとめると、「どのようにすばらしい考え、行い、善業をしても愛がなければ無に等しい」と述べています。学生、教職員の皆さんには、愛をもって許し、奉仕するという精神で研究や教育に携わっていただきたいと願っています。人の命に直接関わる分野ですから、高度な専門知識と技術をしっかりと身に付けていただくことはもちろんですが、人の想いを理解し、人の痛みがわかり、一人ひとりを大切にする、そんな専門職業人として育ていただくことを望みます。その基本はやはり「許す」ことであり、できるだけ相手の良いところを見て伸ばせるような、愛をもって社会に役立てる看護師、管理栄養士、助産師として羽ばたいてほしいと思います。

本学には早速に解決すべき課題もいくつかあります。受験生確保の方策、大学院看護学分野の後期課程の設置、助産研究科の改革などの懸案事項を解決することも、私の当面の仕事だと理解しています。そして、天使大学を将来どういう大学にしていけるのか、進むべき道を多方面から探っていきたいと思います。組織論として考えれば、大学の再編や統合といったことも含めて検討する必要があるでしょう。また、本学を深く知る教職員、あるいは学んでいる学生たちがどうしたいと思っているのか、ぜひ個人として皆さんにお話をお聞きしたい気持ちもあります。

天使大学は学生数が1,000人に満たない小規模な大学ですが、「小さいけれどもキラリと光る大学」だと思っています。優れた伝統、高度な専門性、人に寄り添い奉仕する心、海外でも活躍する卒業生たちといった多くの「光」を、これからさらに伸ばし、広げていかなければなりません。



初代校長Sr.川原ユキエ先生とSr.中村タキ先生

出会いと親睦のゼミに参加して

4月4日（木）から一泊二日の宿泊研修「出会いと親睦のゼミ」を北海道立青少年体験活動支援施設（深川市）で行いました。入学式から数日、お互いの名前も知らなかった新入生たちも、自己紹介やレクリエーション、そして祈りで親睦を深めます。この行事以降に天使大学生としての学生生活が本格的にスタートします。

看護学科 ～専門職者への第一歩～



看護学科1年

友廣 理子



看護学科1年

水澤 胡桃

私たちが参加した出会いと親睦のゼミは、その名の通り学生と先生方との交流を深められる、とても有意義なものとなりました。

このゼミは、親睦を深めるために学生が楽しめるイベントがいくつかありました。自己紹介では、将来のなりたい看護師像を発表している学生もあり、互いを知るきっかけとなったと同時に、改めて周りの学生たちの意識の高さと自らの目指すべき看護師像を考えさせられました。また、特に好きなアイドルの話で、盛り上がる場面が見受けられ、終始なごやかな時間となりました。レクリエーションでは様々なミニゲームを行い、看護学科と栄養学科の関係なくグループ分けがされたので他学科の学生ともかかわることができました。リレーでは、どのグループも一致団結して負けじと戦っていました。初対面の人たちばかりの中で、四方八方から笑い声が耐えなかったのは、これらのイベントのおかげで、学生と先生方の距離が急速に縮まったからだと思います。



ケン神父様とレクリエーション

3つの講話を聴き、最終日にグループごと分かれて振り返りとして、ゼミを通して学んだことやこれからの学生生活をどのように過ごすのかを話し合い、看護学科全員の前でそれぞれ発表しました。私たちのグループは、講話の中で、特に印象に残った事柄について話し合いました。1つ目は「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」という言葉です。看護師は医療従事者の中で患者さんと一番近くで接することができる職業であり、そこが看護師の魅力だと思う人が多かったです。だからこそ大切なのは、自分を愛し、患者さんにも愛を持って接することや、日々の何気ない会話やほほえみ、感謝の気持ちを持つことだと考えました。これらができてこそ、患者さんと心を通わせることができるのだらうということに気づきました。

2つ目は、「自己の限界は自分が思っているよりもはるか上に存在し、『もうだめだ』と思ったらそこでだめになってしまう」という言葉です。看護師になるためには楽しいことや嬉しいことだけではなく、苦しいことや乗り越えなければならない大きな壁がたくさんあると思います。しかし、この天使大学看護学科には将来看護師や助産師、保健師などの医療従事者になることを強く夢見ている仲間がたくさんいて、とても恵まれた環境があります。この大学での利点を活用しながら、限界を決めずに成長し続けられるように、学び続けていこうと誓いました。

この出会いと親睦のゼミを通して、私達は同じ目標を持つもの同士で互いに助け合って、さらに高め合い、専門職者を目指して4年間充実した学生生活を送ろうと決心できました。ありがとうございました。



グループワーク発表



学科別自己紹介

栄養学科 ～専門職者の卵～



栄養学科1年

賀野 こはる



栄養学科1年

佐藤 聖羅

私達は「出会いと親睦のゼミ」で1泊2日、ネイパル深川へ行ってきました。学長や先生方の講話を聞き、授業方針や他者への思いやりを学ぶことができました。改めて、専門職を目指す大変さや他者に寄り添うことの大切さを実感しました。さらに、自分達の将来像を発表することで、天使大学で学びたい事や挑戦したい事を考える良い機会となりました。また、夜にキャンドルを灯しながら、これからの4年間の抱負と支えてくれる様々な方々への感謝を抱くことができました。

最初、入学してまだ慣れていない中で1泊というのは不安しかありませんでしたが、学科全体の自己紹介や学年全員のレクリエーションを通してたくさんの人と話せるようになり、1日目の夜にはとても楽しいと思えるようになりました。この仲間たちと共に同じ目標に向かい、学習や困難な事も一緒に乗り越えて行きたいです。

2日目は、お昼を食べた後、深川から札幌に帰り、カトリック北11条教会へ行き、出会いと親睦のゼミのミサをしました。

そこでは、教会で神父様のお話を聞いたり、聖書の文を読む時間を過ごしました。神父様や教職員の方々からは、「愛を通して真理へ」という言葉にもあるように、自分以外のものに愛を持って接することの大切さを教えていただきました。これから私達が目指す専門職は人と人が密に接することで成り立つ仕事であるため、神父様や教職員の方々から聞いたお話を胸に日々成長していきたいです。他にも、天使大学での学



研修施設での昼食

習のスタート地点として背中を押す言葉を多くかけていただいたため、各々が自身の目標に向かって決意を固めることができましたと思います。ミサを通して、改めて管理栄養士や思いやりのある人になりたいと強く感じることができました。この日を忘れずに4年間大学生活を送ってみたいです。

出会いと親睦のゼミの二日間は何より友達と仲良くなるきっかけにもなりました。また、ミサの終わりには天使大学の缶バッチも頂き、最後まで楽しく良い思い出になりました。



Sr. 沢による講話



夕の祈り



友人が増え、リラックスした帰りのバスの中

イベント

天使大学のレシピBook vol.3 完成式

2019年7月30日（火）に「天使大学のレシピBOOK vol.3 完成式」を行いました。

このプロジェクトは、現栄養学科4年次生が2年次生の時に自発的に行ったものです。製作費もクラウドファンディングを利用して集めました。

学生達は、この製作に関わることで献立能力が向上し、社会との関わり方を学びました。



納品されたレシピ Book を開ける瞬間



制作したメンバー

天使祭

2019年6月7日（金）、8日（土）の2日間、第66回天使祭が開催されました。

学内にはクラスやサークルによる模擬店が出店され、廊下や階段も趣向を凝らした装飾で彩られました。また、天使大学独自のイベントとして、恒例の「健康チェック」や「栄養体験コーナー」も賑わいをみせていました。

また8日（土）には、オープンキャンパスも行われ、多数の高校生が来学されました。



衛生に配慮された模擬店の様子



主催した葦の会のメンバー



オープンキャンパスで高校生と交流



オープンキャンパスで受験体験談を話す学生

合唱コンクール

2019年5月14日（火）、合唱コンクールがカナモトホール（札幌市民ホール）にて行われました。

合唱コンクールは、合唱を通じて仲間と協力し合うことの大切さや喜びを共有する本学が天使女子短期大学の頃から大切にしている伝統行事です。

51回目を数える今年は、本学新校舎建設工事に伴い、学外での開催となりました。

学生たちは授業や実習の忙しい合間をぬいながら練習に励み、歌声とともに心を合わせた素晴らしいハーモニーを響かせました。

《入賞結果》	◆優勝	看護学科4年「栄光の架橋」
	◆準優勝	看護学科1年B組「正解」
	◆3位	看護学科3年B組「明日はきっといい日になる」 栄養学科1年A組「COSMOS」
	◆後援会賞	看護栄養学研究科看護学専攻保健師コース2年「さよならの夏 ～コクリコ坂から～」
	◆同窓会賞	栄養学科4年「いのちの歌」



看護学科4年次生



栄養学科4年次生

天使大学子育てサロン

2019年3月22日（金）に「天使大学子育てサロン」を開催しました。お母さんと生後3～5カ月の赤ちゃんを対象に、助産研究科院生によるアロマハンドマッサージや栄養学科教員と学生が作ったちらし寿司などを食べて、お母さんがリラックスして育児についての語らいをしました。また、サロン開催中、助産研究科院生と看護学科学生が赤ちゃんとお子様と一緒に見守りを行いました。



ハンドマッサージをさせていただいている助産研究科院生



赤ちゃんをあやす看護学科学生



ちらし寿司について説明する栄養学科学生



助産研究科教育分野院生の指導のもとに見守りを行いました

「生きるとは、生活とは、人生とは」を実際に学ぶ

公衆衛生看護学原論の授業の一環として、保健師コース1年生が入学早期の6月に、利尻町現地学習に行きました。離島に暮らす住民から「生きるとは、生活とは、人生とは」を学び、保健師のアイデンティティを形成する学習になっています。

往路は、バスとフェリーを乗り継ぎ、1日かけて移動しました。利尻町の生活には、自然環境と島の歴史が深く関係していることを体感し、塩蔵などの食文化が残り、今も塩分が多い食生活に影響していることを町の関係者、地域住民の声から学びました。また、町の基幹産業を営む漁師の生活は、朝早くから出航するため、目覚ましのタバコやコーヒーの多用に繋がり、漁の無い冬期間に、体のメンテナンスに励むなどの行動が見られていることがわかりました。また、漁師は、ウニ漁の箱眼鏡を口で噛みながら操作するため、『漁師は歯が命であり』、歯科医療費が高いことや漁やウニ剥きの姿勢の影響で、腰痛を抱え、健康課題に直結していることを、漁師の話から学びました。

住民の多くが、利尻での生活に誇りをもち、自分たちや未来の世代のために地域をより良くしようと活動している強みや住



看護栄養学研究科看護学専攻保健師コース1年の大学院生

み慣れた町で暮らし続け、島で一生を終えたい思いを持ちながらも、最期は島外に行くしかない現状に、心を揺さぶられました。

保健師は、資源が限られた町ながら、繋がりの中で最期まで生きるように、利尻町独自の支援体制づくりに奮闘していました。こういう町にしたいと熱く目標を語り、「事件は現場で起きている。」と現場に赴き、住民や関係者と繋がり助け合いで資源を創造している保健師に大いに刺激を受けました。暴風雪などの自然の厳しさは、残念ながら(?)体験することなく、終日、天候に恵まれ、1時間の飛行機で帰途につきました。様々な講義や見学、体験を通じ、公衆衛生看護の役割・機能を考える機会を得た3日間でした。

(保健師活動に)迷った時に、ここ(利尻島)に来ようとの学生の声が聞こえてきました。利尻町の住民の皆様、関係者の皆様、保健師に深謝いたします。

(本文の一部は、学生レポートから引用し、作成しました。)



利尻島での漁業体験

夕張地域医療体験

大学間連携として、北海道科学大学が主体で実施している「夕張地域医療体験」へ看護学科4年生高田彩華さんと栄養学科4年生、稲垣冴彩さん、加藤由梨花さん、小間佳波さんが参加しました。

ここでは、栄養学科4年次生加藤由梨花さんに感想を聴いてみました。

～今後重要となる地域医療の考え方について学びました～

3日間の地域医療セミナーでは、訪問医療見学や、グループワークなどを通して、地域医療とはどのようなものかを学ぶことができました。地域医療とは、患者が生涯、自分らしい暮らしを続けていけるよう、地域ごとの形で推進していく医療のことで、高齢化が進む夕張市では、在宅医療を積極的に取り入れること、医療施設や行政が密接に連携することで、地域の特性に合

わせた、質の高い医療体制を目指していました。また、看護学科や薬学科など、他の学科の学生と話し合う機会があり、専門職ごとの視点や、自分たちにはない考えを知ることで、広い視野を持って問題解決に取り組むことが大切であると学びました。高齢化が進む中、地域医療の考え方は今後さらに重要となると思いますが、今回の地域医療について学んだ3日間の経験を活かし、学業や実習に励みたいです。

～島で活躍する卒業生～



北海道宗谷総合振興局保健環境部 利尻地域保健支所
(北海道稚内保健所利尻支所)
管理栄養士 佐藤 舞奈さん



北海道宗谷総合振興局保健環境部 利尻地域保健支所
(北海道稚内保健所利尻支所)
食品衛生監視員(管理栄養士) 川島 佳子さん

現在、栄養学科卒業生の2人は、稚内保健所利尻支所の管理栄養士、食品衛生監視員として勤務しています。

昨年4月、川島さんは他保健所から転勤し、佐藤さんは新人として、利尻支所に着任しました。離島の3町(利尻町、利尻富士町、礼文町)を担当し活動しています。

佐藤さんは、対人保健サービスを担う管理栄養士。地域の住民は塩分の多い食事を摂り、飲酒量も多いという食生活です。高血圧、肥満傾向の方が多く、どうすれば、改善できるか、町の栄養士と相談しながら、栄養指導や研修会の企画を行っています。

川島さんは、対物サービスを担う環境衛生(公衆浴場、理美容、水道)や食品衛生監視員(営業許可、施設監視)として、幅広い仕事を担当しています。

大学時代に学んだ知識をベースにして、専門知識を日々教科書などでバージョンアップしながら仕事に従事しています。

佐藤さんは、市町村の管理栄養士を考えていたときに、市町村をさらに支える仕事に興味を持ち、道職員を目指しました。より多くの人々が健康のままいられるように管理栄養士として携

わりたいと受験し、今に至ります。

大学での公衆栄養学で都道府県や市町村の役割を習っていましたが、就職して役割の違いを理解できたようです。「わからないことは、1年目の特権で教えてもらい、不安なことも表出しながら、できることは何かを考える」という新人ならではのコツも話してくれました。研修会企画も先輩栄養士と共に実施し、反省を次に生かすなど、コミュニケーション力を生かし、気負わずに周囲と結びつき活動している様子が印象的でした。「これからも異動で様々な地域で勤務することになりますが、地域特性を理解することを大切に、地域や住民に寄り添えるように努力していきたい」と抱負を語ってくれました。

後輩へのメッセージとして、管理栄養士の活躍の場は多いので、「視野を広くもって」、「学習や就職に臨むこと」、「誰に対してどういうところで働きたいか」、「自分のビジョンを明確にすること」、「周囲の就職が決まる中でも焦らないこと」を教えてくださいました。

週末は趣味のJリーグ観戦で気分転換することや、荒天の際の食糧の買い出しや震災時の様子など、慣れない離島での生活も同窓の二人がお互い頼りしながら乗り越え、活躍する姿に出会いました。



2018年度 進路・就職状況（就職率100%）

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理学専攻
就職決定者	65	79	13	4	1
進学決定者	21	1	0	0	0
進路希望無し	1	3	0	0	0
卒業者	87	83	13	4	1

【看護学科】就職・進学先

看護師			進学
国立病院 ・国立病院機構 北海道がんセンター ・国立がん研究センター 中央病院 ・国立成育医療研究センター 公立・公的 社会保険関係法人の病院 ・JA北海道厚生連 札幌厚生病院 ・JA北海道厚生連 帯広厚生病院 ・JCHO北海道病院 ・KKR札幌医療センター ・済生会小樽病院 ・留萌市立病院 ・国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 ・千葉県こども病院 ・千葉県立佐原病院 ・日本赤十字社医療センター	大学病院(国公立) ・北海道大学病院 ・札幌医科大学付属病院 ・千葉大学医学部附属病院 大学病院(私立) ・北里大学病院 ・杏林大学医学部付属病院 ・順天堂大学医学部附属浦安病院 ・昭和大学病院 ・昭和大学藤が丘病院 ・東京医科大学八王子医療センター ・東京慈恵会医科大学付属病院 ・東京女子医科大学病院 ・東邦大学医療センター 大森病院 ・日本医科大学付属病院	一般病院 ・JR札幌病院 ・NTT東日本札幌病院 ・旭山病院 ・恵佑会札幌病院 ・北光記念病院 ・札幌東徳洲会病院 ・札幌北極病院 ・手稲溪仁会病院 ・天使病院 ・東札幌病院 ・亀田メディカルセンター ・がん研究会有明病院 ・聖麗メモリアル病院 ・日立総合病院	看護系大学院 ・天使大学大学院 助産研究科 ・天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻 保健師コース ・北海道大学大学院 保健科学院 保健科学専攻 修士課程 看護学コース 助産学専攻 看護系その他 ・札幌医科大学 助産学専攻科 ・札幌市立大学 助産学専攻科 ・北海道教育大学函館校 養護教諭 特別別科 ・北海道立旭川高等看護学院 地域看護学科

【栄養学科】就職先

自治体 ・北海道 ・札幌市 ・札幌市 教育機関 ・北海道教育委員会(栄養教諭)	病院・クリニック ・JR札幌病院 ・愛心メモリアル病院 ・旭川赤十字病院 ・市立室蘭総合病院 ・帯広第一病院 ・動医協札幌病院 ・札幌西円山病院 ・札幌東徳洲会病院 ・手稲溪仁会病院 ・十勝いけだ地域医療センター ・函館五稜郭病院 ・函館脳神経外科病院 ・朋佑会札幌産科婦人科 ・円山はたけやま内科 ・新浦安虎の門クリニック ・松年歯科クリニック	給食委託会社 ・エムサービスジャパン株式会社 ・株式会社LEOC ・シダックス株式会社 ・日清医療食品株式会社 ・富士産業株式会社 ・北海道フジフードサービス株式会社 ・ユニオン給食株式会社 調剤薬局 ・株式会社なほ花北海道 ・株式会社ライフ ・薬樹株式会社	一般企業 ・石屋製菓株式会社 ・一般財団法人栗山町農業振興公社 ・株式会社FUJI ・株式会社アレフ ・株式会社きとのとや ・株式会社クリニコ ・株式会社サッポロドラッグストア ・株式会社サンドラッグプラス ・株式会社セコマ ・株式会社ツルハ ・株式会社北海道百科 ・国分北海道株式会社 ・トヨタ自動車北海道株式会社 ・日本食品分析センター ・北海道プリマム株式会社 ・六花亭製菓株式会社 進学 ・天使大学大学院 看護栄養学研究科 栄養管理学専攻博士前期課程
--	--	--	--

【大学院】就職先

所属：助産基礎分野 ・札幌東豊病院 ・寿泉堂総合病院 ・竹田総合病院 ・市立札幌病院 ・富山県立中央病院 ・KKR札幌医療センター ・釧路赤十字病院	所属：ホスピス緩和ケア看護学コース ・KKR札幌医療センター ・JA北海道厚生連 札幌厚生病院 所属：保健師コース ・札幌市 ・北海道結核予防会	所属：看護栄養学研究科 栄養管理学専攻博士前期課程 ・学校法人鶴岡学園 北海道文教大学
--	---	--

入試結果

看護学科				栄養学科				看護学専攻				栄養管理学専攻 博士前期課程				栄養管理学専攻 博士後期課程				助産研究科助産基礎分野				助産研究科助産教育分野			
試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)	試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)	試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)	試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)	試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)	試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)	試験種別	受験者数	合格者数	倍率(受/合)
公募制推薦	46	35	1.3	公募制推薦	51	39	1.3	一般 前期	7	5	1.4	前期	2	1	2.0	前期	0	0	—	推薦	10	10	1.0	前期	2	2	1.0
社会人	3	0	—	社会人	1	0	—	一般 後期	3	3	1.0	後期	2	1	2.0	後期	0	0	—	前期一般	9	8	1.1	後期	0	0	—
一般	285	94	3.0	一般	69	44	1.6					総 計	4	2						総 計	0	0					
センター利用	180	28	6.4	センター利用	52	12	4.3													前期社会人	2	1	2.0				
																				後期一般	2	2	1.0				

あなたの声を
お聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。
ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科
助産研究科（専門職学位課程）

第27号 2019年8月30日 発行 天使大学広報委員会

<http://www.tenshi.ac.jp>